

ありがとう狭山台幼稚園

「地域の皆さまに支えられた37年間」

狭山台の開発が本格的に始まった昭和53年の春に狭山台幼稚園は開園しました。当時は4クラス160人もいた園児が年々減少し、年長組21人の園児を送り出し、平成27年3月末をもって閉園になります。その準備でお忙しい中、園長の為貝先生と副園長の保坂先生にお話を伺いました。

—狭山台幼稚園の良いところはどんなところですか？

開園から37年間の長きにわたり、地域の皆さま方の温かいまなざしを受け、沢山の子供たちを送り出してきました。市内で一番広い園庭のシンボルである盛土の山は、築山とよばれ子供たちが大好きな場所です。当初は見上げるほどの高さがありましたが、月日の浸食で年々山は低くなり、今では半分ほどの高さになってしまいました。よじ登ってはすぐ滑り降り、競争してはまた登る。いつの時代の子供たちも汗をかき泥だらけになりながら、夢中で遊びまわっていました。



昨年11月の狭山台ふれあい音楽祭の様子。元気な歌声が響きました。

—嬉しかったことを教えてください

やはり日々の仕事の中で、帰り際に「今日も楽しかったよ」「また遊ぼうね」「先生大好き！」と子供たちに言われると、苦労も疲れも忘れ嬉しかったです。また、昨年の運動会には、卒園して高校生になった子供たちが応援に来てくれたのです。「卒園生」というつながり

まちかど情報室

だけで今は別々の進路を歩んでいる子供たちが集まってくれたのは本当に感動しました。

—最後の園児と卒園生にどんな言葉を贈りますか？

「元気でたくましく、自分で喜びを見いだせる人に育ってほしい」「人に感謝できる大人になって、心のぬくもりを増やしてほしい」と伝えたいと思います。

—地域の方へメッセージをお願いします

幼稚園は、園児達だけのものではなく、職員と親御さんたち、さらに地域につながっています。地域の皆さまには行事などに積極的に関わっていただきました。自然環境が整った静かな住宅街のこの地で、37年間も地域に根を張れた幼稚園になれましたことは、ひとえに地域の皆さまのご理解とご協力のおかげと深く感謝しております。

記者雑感 取材を終え案内された2階の部屋には、37年間の思い出の写真が飾ってありました。1人1人の子供たちが狭山台幼稚園を心の故郷としてここから巣立っていったのだな……と胸が熱くなりました。先生方、本当にありがとうございました。



右から為貝先生・保坂先生。左に見えているのが文中の築山。後ろの壁画は、「病院みたい」と建物を怖がる園児のために制作したレリーフ。



文中の運動会に来てくれた卒園生たち。最後の運動会を盛り上げてくれました。

よろず報告

ゼロからわかるインターネット

2月16～18日(月～水)の3日間、狭山台公民館にて「ゼロからわかるインターネット」と題し、狭山市民講師協議会の皆さんに講師をお願いし、初心者向けのインターネットに特化した講座を開催しました。毎日3時間の密度の濃い授業で、自作のテキストを使っ



て基本から解説していただき、参加者からは「仕組みからよく分かった。」「パソコンを使うのが楽しみのになった。」との声が聞かれました。

寿大学「今どきのお墓事情」

2月18日(水)の寿大学はオープンカレッジとして一般受講生を受け入れ、「今どきのお墓事情」と題し、(株)はせがわの桜田武さんから、現代のお墓にまつわるあれこれを伺いました。宗教観の変化に合わせてお墓の形も多様化しており、樹木葬やお墓の引越など、現代なお墓の話に皆さん興味津々で聞き入っていました。受講生インタビューの様子が2月22日(日)のBS-TBS「まるわかり！日曜ニュース深掘り」で放映されました。



折紙ボランティア養成講座 修了式



2月25日(水)、10回にわたる講座も最終回となり、32人の受講生全員に修了証が授与されました。また、公民館事業協力活動等が顕著だった団体、個人に贈られる最優秀特別賞は3班(代表関裕子さん)と松谷由美子さんが受賞されました。さらに、作品作成の質と量を競う10分間ゲームでは、森山康子さん、松澤延子さん、五木田滝子さんが上位3名に選ばれました。修了生の皆さんの今後の活躍を期待します。

エコキッチンでゴミ減量

2月25日(水)、狭山台公民館にて、環境講座「エコキッチンでゴミ減量」が開催されました。NPO法人さやま環境市民ネットワークの遠藤日出子さんから、さんまの筒煮やロールキャベツなど5品を作りながら、ゴミを減らす方法やたい肥作り、風呂敷でも代替可能な保温カバーの使い方など、暮らしで実践できる環境対策の知識を教えてくださいました。参加者からは「日頃の料理のやり方を反省しました。もっと丁寧に食材に向き合わなくてはと思いました」との声が聞かれました。

